

パブリック・コメントの実施結果

番号	反映区分	ご意見の内容	ご意見への対応
1	C	<p>「ころざしの森館」計画 体育館から再び賢人たちの志を感じ、まなび、未来へ伝える場所へ 維新博は過去のもの？賢人たちは再び埋もれるのか？ <input type="checkbox"/> 維新博が閉幕し、早約3年。維新博メモリアル展示があるものの関心は薄れつつある？(自身を含め) <input type="checkbox"/> 会場が離れすぎて <input type="checkbox"/> 既存展示との一体感がイマイチ 博物館の常設展示との関連は？ 本丸歴史館での弘道館の展示が素通りされてしまう (ボランティアガイドの解説がない？) <input type="checkbox"/> 本丸での賢人たちの紹介のボリュームが少ない <input type="checkbox"/> 保管されてる「ことのは」の現在は？ <input type="checkbox"/> 葉隠は「隠れた」存在のまま？ <input type="checkbox"/> 維新博後に新たに興味を抱いた人が「維新博後である」ことを悔やむ傾向あり <input type="checkbox"/> シンボルロードの偉人たちの紹介は？</p> <p>維新博で抱いた志をつなげる場が必要 賢人たちへのスポット再びあてる <input type="checkbox"/> 大隈重信、佐野常民はそれぞれ施設があるが、ほかの賢人たちはない <input type="checkbox"/> 江藤新平は人気があるが詳しく紹介する施設はない <input type="checkbox"/> 大木喬任は義務教育の基礎を築いたが、義務教育の教科書には紹介されず <input type="checkbox"/> 札幌と佐賀との関係は意外と知られていない <input type="checkbox"/> 現在の省庁制度のようなものを考案したのは誰か？ <input type="checkbox"/> 単なる賢人の紹介だけでは関心を維持するのは難しい <input type="checkbox"/> インターネットで大抵の調べることができる時代 インターネットでは感じるできない体験と感動、記憶を残すもの ・賢人は「偉人」ではなく一人の「人」 ・賢人は「過去の人」ではなく現代につながる「人」 であることを感じられるような施設</p> <p>現在あるものから賢人たちへのアプローチ 現在あるものを誰が作ったかという視点から賢人たちへアプローチする <input type="checkbox"/> 法律・警察⇒江藤新平 <input type="checkbox"/> 赤十字⇒佐野常民(維新博第2場の活用？) <input type="checkbox"/> 鉄道・円⇒大隈重信 <input type="checkbox"/> 教育・法律⇒大木喬任 <input type="checkbox"/> 北海道⇒島義勇 <input type="checkbox"/> 人権・現在の省庁制度⇒副島種臣 <input type="checkbox"/> 財政再建⇒鍋島直正</p> <p>賢人たちはどのように育ったのか <input type="checkbox"/> 賢人たちが育った背景として、維新博の第1場の活用 <input type="checkbox"/> 賢人たちが学んだ場として、「リアル弘道館」の活用 <input type="checkbox"/> 賢人たちの先生の例として、枝吉神陽の紹介 <input type="checkbox"/> 賢人たちが学んだ例として、「葉隠みらい館」の活用</p> <p>賢人たちをより肌で感じるために <input type="checkbox"/> 維新博第3場の活用 <input type="checkbox"/> 八賢人おもてなし隊による寸劇 <input type="checkbox"/> 人柄が感じられるような企画展 <input type="checkbox"/> 大隈重信記念館、佐野常民記念館との連携企画展 <input type="checkbox"/> ワークショップ</p> <p>ころざしを次世代へ <input type="checkbox"/> 弘道館Ⅱの開催 <input type="checkbox"/> 維新博の紹介から「ことのは」の見せる展示(50年保存しているところを) <input type="checkbox"/> 自分はどう感じ、他人はどう感じるかの発表の場としての「ことのは」</p>	<p>明治維新150年を契機に開催された肥前さが幕末維新博覧会では、市村記念体育館がメインパビリオンとして活用され、子どもたちをはじめとした多くの県民が、当時の日本を牽引した佐賀の「技」や「人」、それらの礎となった先人の「志」に触れたことにより、佐賀への誇りや新たな「志」を抱くきっかけになりました。このような県民の心に芽生えた佐賀への誇りや新たな「志」は、佐賀県が飛躍する上で土台となるものであり、今に活かし、未来へ繋げ、広げていく必要があると考えています。 このため、本施設では、目指すべき姿を実現するための一つの機能として、さが幕末維新博覧会の時のように「志」を伝えていくような場を作りたいと考えています。具体的な内容については、ご意見を参考にしながら、今後検討していきたいと考えています。</p>

※反映区分

- 「A」計画等と同趣旨のもの
- 「B」計画等の修正を行ったもの
- 「C」計画等の推進の段階で検討するもの
- 「D」計画等の修正が困難なもの
- 「E」計画等に関する感想や質問であるもの